岐阜県図書館協会

Ｎｏ．４８
令和２年３月

会　報

事務局
〒500-8368
岐阜市宇佐４－２－１
岐阜県図書館内
電話(058)275-5111

岐阜県公共図書館協議会活動報告

本協議会では、県内の加盟館が連携し、図書館活動振興のための各種事業を行っている。

５月 16 日の総会後に公共図書館長トップセミナーを開催し､｢岐路に立つ図書館～地教行法と社会教育三法の改正を控えて～」をテーマに、糸賀雅児氏（慶應義塾大学名誉教授）よりご講義をいただいた。加盟館の館長及び職員 42 名が参加し､図書館の所管の在り方や首長部局に移管した時の政治的中立性の確保などについて考える機会となった。

10 月 24 日には職員研究集会を開催し､｢超高齢社会における図書館サービス」をテーマに、呑海沙織氏（筑波大学付属図書館副館長・筑波大学図書館情報メディア系教授）から加盟館の職員 41 名が､認知症についての知識や超高齢社会における図書館の役割について学んだ。

この他、加盟館共同事業として、秋の読書週間から年末までスタンプラリーを実施した。

また、加盟館共通テーマ資料展示として５月から６月にかけて「生物多様性」、９月にがん相談支援センターと連携して「がん予防啓発」をテーマに、各館で一斉に関連図書の展示やパンフレット等の配布を行った。

関市立図書館の資料展示

●県内公共図書館の動向

高山市は開館 15 周年を記念して、７月に映画上映、９月に絵本作家のワークショップなどを開催した。飛騨市は開館 10 周年を記念して、７月に図書館のあゆみ展、９月にジャズライブなどを開催した。

新たな取組みとしては、岐阜市は３月に自館製トートバックの販売、６月にがん情報コーナーを設置した。本巣市は９月に市出身の絵本作家が描いた読書通帳を作成し、12 月に図書館システム更新に合わせて読書通帳機を導入した。関市は７月から英語教育支援のため学校専用の電子図書館を導入した。可児市は１月から施設等に配達する絵本パック詰めサービスを開始した。中津川市は７月から図書館機能検討委員会で図書館も入る複合施設の図書館機能などの検討が行われ、11 月に報告書がまとめられた。この他、羽島市、垂井町、白川町、美濃加茂市が図書館システムの更新、多治見市がホームページのリニューアルを行った。

●岐阜県図書館について

３月に第２次岐阜県図書館の運営方針を策定、４月に改元記念事業「平成の歩みと文学を振り返る」の展示、７月に電子書籍の導入、８月に職業教育を兼ねて中学生向けのがん講座の開催、11 月に紺野美沙子名誉館長朗読会の中津川市での開催、12 月に図書館システム及びホームページを更新し、借りた本を記録できる機能やスマートフォンによる貸出サービスを開始した。

（岐阜県公共図書館協議会事務局）

岐阜県大学図書館協議会活動報告

令和元年度、岐阜県大学図書館協議会として次の活動を行った。

〇運営委員会（７月 23 日〈火〉岐阜大学）
〇総会（７月 30 日〈火〉中部学院大学）
〇講演会（７月 30 日〈火〉中部学院大学）
〇視察研修会（11 月 22 日〈金〉第 109 回全国図書館大会 三重大会への参加）

令和元年度の総会は、当番大学の中部学院大学を会場とし、会務報告の後、以下の項目について協議した。

（１） 平成 30 年度決算（案）について
（２） 令和元年度予算（案）について
（３） 研修会（講演会）（案）について
（４） 研修会（視察研修会）（案）について
（５） 情報交換

情報交換では、以下の取組等についてそれぞれ説明・紹介および種々意見交換を行った。

・重複本の購入について
・古本、古書の購入について

総会終了後に、中部学院大学と本協議会との共催で、中部学院大学 特任教授・元岐阜新聞社 社長の碓井 洋先生による講演会「ジャーナリズムと地元新聞の役割」を開催した。講演では、岐阜新聞の歴史、災害に対する新聞社の取組、地元新聞として展開している特徴的な記事等についての話があり、参加者は興味深く話に聞き入った。

視察研修会は、９会員館から合計 15 名の図書館職員が、それぞれの職務や関心等を踏まえ、第 109 回全国図書館大会 三重大会における次のような分科会へ参加した。

例１）テーマ「震災と図書館活動」

静岡大学附属図書館の防災事例（斜面に沿った建物で入り組んだ構造となっている書庫の利用者は防災バッグを身につけること等）、三重短期大学附属図書館の防災事例（図書館ボランティアサークルと協働して落下防止テープの施工や館内ハザードマップの作成を行ったこと等）、倉敷市立図書館の平成 30 年７月豪雨による被害状況や復興事業（移動図書館車の運行等）について報告があった。

例２）テーマ「図書館における利用促進」

アクティブラーニング促進のためのラーニングコモンズでの授業の実施（山口大学）、マンガと文庫・新庫を混配して学生の興味を広げ、そこから入門書へ、さらに専門書へと、知の奥へ向かわせる工夫や、アプリでの予約および 24 時間利用が可能な 250 席の自習室等、様々な機能を有するアカデミックシアターの設置（近畿大学）、図書館で企画運営、地域貢献活動等を主体的に行い自己実現を楽しむ皇學館大学附属図書館ふみくら倶楽部の活動（皇學館大學）等について報告があった。

本協議会は、大学図書館の振興のために、今後も相互に連携を深める活動を積極的に取り組んでいきたい。

（岐阜県大学図書館協議会事務局）

岐阜県学校図書館協議会活動報告

岐阜県学校図書館協議会では、下記のように学校図書館の充実発展を図るための研究会や研修会と、児童生徒の読書の振興を図るための各種コンクールを行っている。

☆研究会、研修会

(1)第１回研究会及び代表者会（5 月３１日 岐阜県総合教育センター）

県内各郡市の理事と代表者が集い、活動計画、予算等の協議や、東海地区学校図書館研究大会

（三重大会）の紹介等の連絡をして、子どもの読書や図書館教育の推進について共通理解を図ることができた。

さらに、県教育委員会学校支援課課長補佐　横山真一先生より「学校図書館教育の充実について」という題で講話をいただいた。その講話から、新学習指導要領の総則から、各教科で学校図書館を利活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実させることを学ぶことができた。

(2)夏季ゼミ（８月 20 日岐阜県図書館）

「県図書館の活用法について」という題で企画課振興係課長補佐　大野智子先生とサービス課調査相談係主事　笠原明香先生にお話いただいた。

国語科の学習では、並行読書を進めたり単元の終わりに表現活動を仕組んだりする学習が増えていることから、県図書館では、学校に対して 30 日間貸し出しサービスをするセット文庫があることを教えていただいた。調べ学習用・朝読書用・お話会用に活用できる資料が準備され、近くの市町図書館や公民館図書館を通して３か月まで貸出できるようになっており、他教科でも、積極的に利用されているとのことであった。

読書バリアフリー法が施行され、視覚障害者等の児童・生徒が学校図書館を利用しやすいよう整備することが求められている。今回は、バリアフリーの資料として「マルチメディア DAISY」についてお話を聞いた。音声・テキスト・画像で構成され、これらが同期して再生されるデジタル図書であるが、まだあまり認知されていないので、実物を体験する良い機会となった。

その後、普段は見ることのできない館内のバックヤードや地図コーナーを見学させていただき、参加者が、県図書館では多様なサービスを充実させ、学校のニーズに合ったものを工夫しているので、児童・生徒の学びに大いに活用していきたいという思いを強くした。

(3)第２回研究会及び代表者会（2 月 20 日岐阜県総合教育センター）

研究会や各種コンクールの報告、令和３年度の東海地区学校図書館研究大会（岐阜大会）に関する確認を行った。また、今年度学校図書館教育最優秀賞受賞校の中で、岐阜市立岩野田北小学校、羽島市立桑原学園の２校に図書館教育の実践発表をしていただいた。アイデア満載の図書館経営について学ぶよい機会となった。

☆各種コンクール

(1)第５１回図書館だよりコンクール(高等学校)

(2)第６５回読書感想文コンクール（小中学校、高等学校）

(3)第３１回読書感想画コンクール（小中学校、高等学校）

(4)第４０回図書館利用記録コンクール（小学校、中学校）

それぞれに多数の参加があり、すばらしい作品が集まった。

岐阜県独自のコンクールである、「図書館利用記録コンクール」では、複数の図書資料やインターネットを利用しての調べ学習の過程が綴られ、読む人の胸をうつような感動や発見のある作品が集まっている。今後もこうした事業を通して、読書活動等がますます豊かに発展することを願っている。

（岐阜県学校図書館協議会事務局）

令和元年度事業報告

●図書館活動研究大会

（11月27日　岐阜県図書館　48人参加）

「デジタル情報源の活用」をテーマに、追手門学院大学の湯浅俊彦氏と国立国会図書館関西館

の本田麻衣子氏を講師に迎え、電子書籍やデジタル化資料の具体的な活用例を交えたご講義をいただいた。

電子書籍の音声読み上げ機能を活用した障害者サービスの取り組みや、在日外国人を対象とした多文化サービスの展開などをご紹介いただき、電子書籍によってもたらされる新たなサービスの可能性を示していただいた。また、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスについて、具体的なレファレンス事例をご紹介いただき、日々の業務における有用性を示していただくとともに、より実践的な活用方法を学ぶ機会となった。

後半は６つのグループにわかれて、前半の講義を通して考えたことや、電子書籍を導入する意義について話し合った。学校図書館や公共図書館など、それぞれに異なる立場から意見交換する事で、他機関との連携の重要性やデジタル資料を取り入れたサービスの可能性などの共通認識を深めることができた。

●学校図書館職員対象研修会

特別支援教育と学校図書館
―特別な支援を必要とする子どもたちの読書活動を推進するには―

（７月３１日　岐阜県図書館　37人参加）

今年度初めて、岐阜県総合教育センターとの共催で研修会を開催した。専修大学文学部の野口武悟氏をお招きし、読書バリアフリー法や最新のガイドラインをはじめ、昨今の学校図書館における読書支援について、具体的な事例をもとに解説していただいた。また、加茂高等学校図書館司書の坪井敏二氏による事例発表を通して、生徒に対する読書支援をより身近な課題として捉え、取り組みへの意欲を高めることができた。講演後は、グループワークを実施し、各学校の現状について意見交換を行った。

参加者からは、具体的な支援の方法を知ることができてよかった、さっそく実践したいなどの感想が多く寄せられた。

●その他

- **岐阜県図書館協会　理事会**　６月14日
- **相互協力部会**　８月28日
- **資料発行**　「会報」（48号）　令和２年３月

（岐阜県図書館協会事務局）